

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1階)

事業所番号	2793100146		
法人名	株式会社 ジャパンメディケアネット		
事業所名	グループホームつながり城北		
所在地	大阪市旭区赤川1丁目3番24号		
自己評価作成日	平成30年12月5日	評価結果市町村受理日	平成31年4月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成30年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>平成30年1月に開設した27床(3ユニット)新しいグループホームになります。本年は、ご入居者様からのご要望に応え、季節のさまざまな行事や地域のお祭り等、参加頂いております。その他、定期的に外食のレクリエーションや外出レクリエーションを企画実施し今年の10月の協力医療機関の日帰りバス旅行に参加し、入居者様の知人の方やご家族の方にもご参加いただき、楽しんで頂きました。個別支援にも力を入れており、入居者様のご要望にお応え、生まれ育った場所へ行くなど実施しました。次年度も引き続き、入居者様とご家族様、地域の方への「つながり」を大切に支援して参りたいと思っております。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業主体の(株)ジャパンメディケアネットは1984年に設立され、現在の運営施設は当事業所のみである。開設時には、他施設からの経験者や新規採用で職員の陣容を整えた。事業所名や理念に沿って、入居者・家族・地域との「つながり」を大切に、新しい生活の様々なつながり、職員のつながりに積極的に取り組んでいる。利用者の夢を叶えるべく、希望に沿った季節メニュー・食事レク・外食・出張ラーメンなど、色々工夫して食事を楽しんだり、外出レクを実施している。介護度の低い利用者が比較的多く、好みや特技・経験を活かして、掃除・おやつ作り・食事仕事・花壇づくり・ギター演奏・歌・踊りなどにできるだけ参加してもらって、ADLが維持できるように努めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「入居者様・家族様・職員や地域住民の方々の尊厳やつながりを大切にする」という理念に基づき、分かりやすい場所に掲示するとともに、各フロアの理念を掲げ共有し実践につなげている。	事業所理念「慣れ親しんだ場所で、ひとり一人が、その人らしさを発揮できるよう支援します。豊かな人間関係を保ち支え暮らしていけるよう(入居者とのつながり、家族とのつながり、地域とのつながり)を大切にします。」を玄関に掲示し、会議議事録にも掲載して職員に周知し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(餅つき大会 ふれあい祭り等)に積極的に参加し、地域の一員として交流を図っている。	ホームすぐ前の公園へ日常的に散歩に出掛け、近隣の子も達と触れ合って馴染みになっている。また自治会に加入し、地域の行事(餅つき大会・地域ワイワイ祭り)に参加しているが、開設間もないことから、地域との交流は不十分と認識している。	自治会役員や民生委員などから、地域の福祉ニーズを把握し、保育園・幼稚園・小学校との交流、小中高生の職場体験やボランティア受け入れ、認知症講座の開催など、地域との交流の輪を広げることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	旭区のグループホーム連絡会にて地域包括支援センター職員 役所職員を交え交流し、地域の行事に参加するなどしている。今後は集会場を利用し認知症講座など行っていきたい。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催し、入居者・家族・民生委員・町会長・包括支援センター・区職員で構成しホームでの活動報告・サービスに対する意見など情報共有している。	会議には地域包括支援センター職員・町会長・民生委員・家族(交代で随時)の参加を得て、活動報告・事故報告を中心に行い、意見交換している。開催場所(応接室)が手狭なことから、多人数の参加は難しいのが現状である。	地域の集会所など広い開催場所を確保し、協力医師などの知見者や利用者・家族に働きかけて、参加者を充実することが望まれる。またできるだけ詳しくてわかりやすい議事録を作成して家族に配付し、理解促進と参加促進を図ることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議やグループホーム連絡会で包括支援センター職員や生活支援課職員と密に連絡をとり、連携し協力関係を築いている。	区の保健福祉課、市の介護保険課・市民課とは窓口や電話で日常的に連携しており、利用者の住所変更に伴う介護保険申請を手助けしてもらったこともある。3か月に1回の区グループホーム連絡会には地域包括や区職員も参加し、情報交換などを行っている。月1回ケースワーカーの訪問も受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルを各フロアスタッフルームに整備しており、いつでも観覧できるようにしている。その他、研修会も定期的を実施している。	身体拘束排除マニュアルと身体拘束排除に関する指針を作成し、年2回の研修などで職員に周知している。施設長をリーダーとして職員3～4名が参加する「身体拘束廃止・予防に関する委員会」を3か月毎に開催している。玄関やフロア出入口は暗証番号式でロックしているが、利用者が出たい時には同伴して対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に虐待が見過ごされることがないように入居者の様子を確認し注意を払っている。職員のストレスなどにも注意しいつでも話せるよう心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活自立支援事業(安心さぽーと)の活用や成年後見制度、市民成年後見制度を活用している。集会場を借りて職員・地域の方々へ向け成年後見制度についての勉強会を行った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書・契約書を用いて丁寧に説明している。不安や疑問をもたれた時は、詳しく説明する様、心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に現状の報告を随時行っている。玄関に意見箱を設置している。その他、運営推進会議で意見交換して運営に反映させている。	家族の訪問は、毎日の人や週1回程度の人、ほとんどない人まで様々だが、訪問時には利用者の状況を伝え、意見・要望を伺うよう努めている。ケアや金銭面などに関する相談・要望はよくあるが、運営に関することはほとんどない。食が細った時の食物(トマトなど)を家族と話し合って決定したこともある。	現在ホーム便りは発行しておらず、今後、家族の要望に沿って、利用者個人の様子を写真や文章で記載し、連絡事項も含んだ便りを作成して毎月家族に配付し、活動の理解促進と意見・要望の把握の一助とすることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議を設け、代表者も参加し、職員の意見や提案に限らず、疑問不安など様々なことを話し合う機会を設けている。管理者は、毎日の申し送りやフロアの会議に参加し意見交換を行っている。	月1回の全体会議に代表者も参加し、職員の意見を聞く機会がある。月1回のフロア会議や毎日の申し送りでも、職員の意見・提案を聞いている。認知症実践者研修などの研修、レクレーションの内容、シフトの組み方、物品購入、シーツ納品・交換の仕方など、職員からの提案で決定・改善することが多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と連絡や相談等連絡をとり、職員の個々の実績など報告し把握に努めている。全体会議などで、各自が向上心をもってもらえるような、勉強会の提案やレクリエーションの提案など協力し努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内を行い、研修参加している。その他、法人グループ内で介護スクールを行っており、参加呼びかけしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の事業所と交流の機会を確保するとともに、旭区グループホーム連絡会を3か月に1回行っており、参加している。その他、法人グループ内の勉強会交流も定期的に行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者に面談を行い、本人・家族に詳しくグループホームへの理解をしていただき、不安が出来るだけないように努め、アセスメントを行うことで要望など確認するよう努力しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来るだけ家族との面談の機会を心がけ、意見や要望を拝聴できるよう対処している。電話での相談なども随時行っており、関係を深めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の話を伺い、多職種からの意見も参考にした対応を心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で役割をもっていただき、個々の能力に応じ、一緒におやつを作ったり、洗い物や掃除など職員と共同で行ったり、食事を一緒にとるなどホームの一員であることを実感してもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設の行事や日帰りバス旅行に出来る限り参加していただけるように、日程を調整し本人と家族が楽しんで過ごしてもらえるよう呼びかけしてふれあいを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の要望に出来る限りお応えし、生まれ故郷にスタッフと馴染みの場所へお出かけするなど個別援助させて頂いている。	アセスメントや家族の面会時などに馴染みの関係を把握・記録し、職員間で共有している。かつての近隣の人や知人が訪れたり、墓参りや菩提寺、馴染みのスーパーへ出掛ける人もいる。地域の住民や子どもと馴染みになったり、仲の良い利用者と同席やおしゃべりしたり、手紙・年賀状のやりとりなど、入居後の馴染み関係の継続を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が孤立しないように職員が間に入りレクリエーション(カラオケ・外出レク・外食レク)を通じ利用者同士のふれあいの場を提供している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、必要に応じて電話相談や支援に努めている。他サービス利用の希望時などは、情報提供させてもらいフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に初回アセスメントをとり、本人の暮らしに対しての要望等、把握に努めている。困難な場合は、これまでの生活歴や家族から情報を得て、出来る限り本人の望む暮らしができるよう支援している。	日常の食事・おやつ時、入浴時、買い物・散歩時、夜間などに、利用者に寄り添って意向を把握している。把握困難な人は、声かけした時の反応やジェスチャーなどで把握するよう努めている。意向に沿って、かつての自宅を探し当てて感動されたり、好みや特技を活かして落ち葉掃除・花壇づくり・ギター演奏・歌・踊りなどを行ってもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント用紙を用い、本人及び家族に十分に聞き取りを行い把握に努めている。必要に応じて在宅時のサービス関係者や介護支援専門員に情報提供を依頼している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りで、本人の状態を把握し、全員が確認できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各ユニットフロアで会議を行い、必要に応じて家族、関係者とも話し合い、意見を取り入れ計画を作成している。	フェイスシート、医療機関情報提供書、看護要録などの記録や、利用者・家族から意見・要望に基づき、長期目標半年、短期目標3か月で計画を作成している。3か月毎にモニタリング、半年毎にアセスメントを繰り返し、サービス担当者会議(本人・家族も参加)で医師・看護師・栄養士の意見も取り入れて計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を介護記録を活用し、介護経過に残し、フロア会議などで情報共有しモニタリングを行い計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族のニーズに出来る限り対応しています。例えば、外食を希望している方がいる場合、職員が付き添い外食する等、ホームのサービスに捉われない支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの場所への散歩や買い物、地域行事の参加など、楽しみのある暮らしを提供できるよう心掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療を受診するにあたり、本人及び家族等から情報提供していただき、納得が得られたかかりつけ医の関係を築くよう心掛けている。	入居前の医師をかかりつけ医としている2名以外は、協力医をかかりつけ医とし、月2回内科往診を受けており、歯科・歯科衛生士も週1回往診している。眼科・循環器科・総合医療センターには家族か職員が同行し、協力医と先方の医師は互いに情報交換をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師とは密に連絡をとり、日常の情報や気づきなど、申し送りするようにしている。個々の入居者が適切に看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、地域医療連携室に連絡を密にとり、情報共有をしている。ご家族様への連絡も随時行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化する前に、本人、家族、医師、看護師、職員を交え本人の思いを考慮しながら、話し合いの場を設けている。	「重度化した場合の対応に係る指針」を作成し、入居時に家族に説明し同意を得ている。重度化した場合は状況を説明し、看取り開始の同意書を交わすこととしている。開設間もないことから看取り経験はないが、看取りのDVDを全職員で見て知識を習得している。24時間オンコール体制も整えており、利用者・家族の意向に沿って看取る方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時に備え、マニュアルを完備し、看護師を講師に勉強会を行っている。今後も定期的に実施する。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を消防署職員立ち合いのもと、実施している。地域住民へ訓練をお知らせするとともに参加への呼びかけも行っている。	「防災マニュアル」を作成し、職員に周知しており、年2回(内1回は夜間想定)、消防署立ち合いで消防・避難訓練を行っている。今後は、地震や津波を想定したミニ訓練も実施したいとしている。町会長はじめ地域住民の災害時の協力も取り付けている。各ユニットに水・食料・備品などを3日以上備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の理念を念頭に置き、日々丁寧な対応をするように指導している。 プライバシー保護のマニュアルを整備し、いつでも閲覧できるようにしている。	「プライバシー保護マニュアル」を作成し、人権とプライバシー保護に関する研修を行って職員に周知している。着替え・排泄時にはドアを閉め、排泄後は換気やスプレーで消臭し、オムツ替え時はバスタオルで隠し、入浴時は見えないよう見守るなど配慮している。不適切な言動があれば、管理者やリーダーが個別に注意して是正している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まず寄り添い聞くことを大切にして職員の考えでなく利用者から自己決定できるようにしていただいている。例えば、おやつレクでは自己決定が出来るようにトッピングなどを選択できるような工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを大切にし、その人らしいペースで生活を送っていただけるよう、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回、訪問理美容があり、必要に応じて本人から、カット・カラー・パーマ・顔そりなど、ご要望をお伺いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえやおぼん拭き、洗い物などお手伝い頂いている。その他、おやつと一緒に作るなど楽しんで頂いている。	業者からの食材を調理(焼く・煮る・温める)して提供し、職員も一緒に食事している。楽しみ福祉メニューからおせち・餅・そうめんなどの季節メニューを選択したり、食レクとしてうどん打ち・そば打ちをしたり、2か月に1回ハンバーガー・回転ずし店に出掛けたり、月1回おやつを手作りしたり、出張ラーメンに来てもらったり、色々楽しむ工夫をこらしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	当ホームは食材業者に委託し、管理栄養士のもと、栄養バランス、量など個々の状態に応じて随時対応している。(おかゆ、ミキサー、刻み食、トロミ等)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとり個々の状態に応じた口腔ケアを行っている。毎週の訪問歯科による衛生管理、指導も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間やパターンがわかりやすいように排泄チェック表を設け、排泄パターンが把握しやすいようにしている。チェック表をもとに職員が話し合い、トイレの声掛けをする等している。	オムツ勉強会を開催して、適切な排泄対応を習得して職員間で共有している。夜間は1時間ごとに見回り、個々の排泄量・パターンに応じて声かけ・トイレ誘導したり、オムツ・パッド交換するなど適切に対応している。退院後にオムツからリハビリパンツに改善したり、食物繊維の多い食事で便秘が改善したなどの例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来る限り、食物繊維の豊富である飲食物や1日の水分量にも気をつけるようにしている。その他、管理栄養士に相談する等している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、入浴前にバイタル測定を行い、体調がすぐれない時は他の日に振り替える等柔軟に対応している。入浴剤の種類を多数取り揃えており、入浴を楽しんで頂いている。	週2回を基本に曜日を決め、時間は随時に入浴してもらっているが、利用者の希望に沿って曜日も変更している。入浴嫌いな人には、間を置いたり、職員や日を代えたりして入ってもらっている。特定の職員の介助を希望する人もいる。個々人の希望に合わせて、毎日様々な入浴剤を楽しんでもらっており、季節のゆず湯も楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣にあわせて、安眠や休息ができるように支援している。共有フロアにはゆったりと座れるソファを備え付けており、休息され過ごされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については処方時、変更時など薬局の薬剤師や訪問看護師に相談している。職員にはわかりやすいように、ファイリングしていつでも見れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時のアセスメントで生活歴や嗜好品の把握に努め、日常生活の中で、生活歴や嗜好品など会話の中で聞くよう心掛けている。希望があればスーパーで買い物され楽しまれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩は積極的に散歩への声掛けをさせて頂き、希望に応じていくようにしている。普段行くことができない場所についても、ご希望に応じて企画を挙げてでかけるよう支援している。	ホームすぐ前に公園があり、重度の人も含めてできるだけ外出するよう努めている。今秋、協力医療機関の日帰りバスツアーに利用者全員と、職員・家族含めて約50人が参加し、宴会も楽しんだ。家族と食事やお墓参りなどに掛ける人もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金をもつことで安心される方もいらっしゃいますので、出来る限り本人様にお金を所持していただいている。近隣のスーパーや100均でお買い物をされるなど楽しまれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば、ホームからお電話して頂いている。お手紙のやりとりについても、支援させていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は季節感を感じれる飾り付けを利用者と一緒につけている。	開設間もないこともあり、施設全体が明るくきれいで、早出・遅出の職員と利用者と一緒に清掃して、清潔に保たれている。食堂兼リビングには、利用者と共作の季節感ある飾りつけや、行事を楽しんでいる入居者の写真などがあり、テレビやソファも置かれて、利用者がゆったり穏やかに過ごせる場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中でも気を配り、職員が間に入り、利用者同士が穏やかに過ごせるように配慮している。リビングにソファを設置しており、テレビをみたり、横にならねりして過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室では入居時に、本人や家族と相談し馴染みの物や家具などご持参頂き、入居後も随時相談をしながら、本人の意向に添えるよう配慮させていただいている。	居室入口には利用者のスナップ写真とクリスマス飾りがあり、不案内な利用者の居室ドアには、縦1m程もある大きな名前を貼って間違わないよう工夫している。居室にはエアコン・ベッド・タンス・洗面台・カーテンを設置し、利用者はテレビ・仏壇・衣装ケース・冷蔵庫・人形など、思い思いの物を持ち込んで、居心地のよい場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動の動線について十分に職員間で話し合い、家具の配置等に配慮し安全に生活ができるように心がけている。		